

校長室の窓から

「朝のプラットホーム」

明けましておめでとうございます。いつも「校長室の窓から」に目を通していただき、ありがとうございます。今年も「自分が心を動かされたこと」を皆様にもお伝えできるよう、がんばりたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

平成25年7月22日、午前9時過ぎのことでした。JR京浜東北線の南浦和駅で、突然非常ボタンが鳴り響き、数人の駅員がホームを走っていきます。何事かとホームに降りた乗客たちは、駅員が誰かを担ぎ上げようとしているを目撃しました。

アナウンスが流れます。

「電車とホームの間にはさまれたお客様がいますので、ただいまから救助します。」

降りようとした女性がホームと電車の間10センチの隙間に落ち、腰を挟まれ、動けなくなってしまったのです。駅員の「みなさん、降りてください。」との呼びかけで、その車両の乗客が次々と降りてきました。

少し軽くなった車体を駅員たちは押し上げようとしています。それを見た乗客数人も一緒に、「せーの！」のかけ声で車体を押しました。それでも車体は32トンもの重さがあります。あげたまま保つことはできず、女性の「痛い、痛い」の声は続きます。

すると、電車から降りてきた人たちが続々と集まってきた。そしておよそ40人が車体に手を伸ばし、1列に並んで押すのを手伝ったのです。3回目の「せーの！」で女性を助けることができました。幸い大きなケガもなく、見知らずの乗客同士が協力することで、一人の女性を救ったのでした。

ほどなく電車は動き出し、人々はそれぞれの目的地に向かっていきました。

この救出劇は、海外でも驚きをもって放送されました。

「どうしてこんなに迅速に乗客が団結できたのか。他人の命に対して、われわれの国の人々も無関心であってはならない。（ロシア）」

「日本人の人々が生来の結束力を余すことなく示し、困っている人に手をさしのべた、素晴らしいニュース（タイ）」

もちろん事故はないほうがよいのですが、今年もこんなニュースが多い年でありますように。